

Mesocestoides lineatus (条虫類) の日本 における人体寄生の第3例

森 下 哲 夫 小 林 瑞 穂 五 藤 基
江 口 孝 森 山 和 典

岐阜県立医科大学寄生虫学教室

大 橋 三 与 治

岐阜県立医科大学乾内科学教室

(昭和38年12月18日受領)

Mesocestoides lineatus (Goeze, 1782) Railliet, 1893 が小坂(1942)により豊橋市在住の男(36歳)の腸管に寄生していたことが報告され、更に伊藤ら(1962)によつて浜松市居住の女(51歳)の腸管からも採取された。世界的に *Mesocestoides* 属の条虫の人体寄生例は Chandler (1942) が米国テキサス州で生後13カ月の白人の子供に *M. variabilis* の寄生を見出し、Faust ら(1957)によると Chandler(1949) が更にグリーンランドの住民からデンマークで同条虫を採取したとの報告以外にその例が見当らない。ここに報告する寄生例は日本に於ける第3例である。

臨床所見

患者は名古屋市中央部に居住する49歳の洋服屋の男である。生来胃腸が弱く1962年11月初旬名古屋市繁華街の蛇屋で生のマムシ (*Agkistrodon halys*) の肝及び血を飲用した。即ち八丈島産と称するマムシを目前で頭を切断し、マムシの尾部を上にして生血をコップにしぼり、更に腹をさいて肝を摘出し生血と共にブドウ酒に浮かせて飲んだ。家庭では犬は飼っていない。1963年10月下旬便中に白色米粒大の蠕動する条虫の片節を数個認めた。11月初旬我々の研究室を訪れたので早速入院させて駆虫を行うこととした。

入院時の所見は次の様である。体格及び栄養中等度、皮膚及び粘膜は貧血性でなく血圧112~70 mmHg、心肺に著変なし。肝、脾はふれず、腹部に圧痛、抵抗、腫瘤を認めない。検尿の結果は蛋白(-)、ウロビリノーゲン(正常)、ビリルビン(-)、尿糖(-)、尿沈渣に異常な

し。検便の結果は粘液(-)、血液(-)、潜血(-)、白色米粒大の条虫片節あり。末梢血液検査では赤血球数512万、血色素量104%、網赤血球7%、栓球数23万、白血球数6200(百分率好中球73%、淋巴球7.5%、好酸球2%、単球1.5%)で貧血及び好酸球増多はみられない。出血及び凝固時間は正常である。胃腸レ線透視で小腸炎の像を認め、小腸領域に2mm巾程の条虫を疑わせる線条の陰影欠損が認められた。

11月13日夜絶食させ9時に bithin 1.3g、更に14日早朝食前の7時に1.3g経口投与した処、14日夕方下痢を起し6隻分と思われる条虫体を一度に排出した。しかしその何れにも頭部を認めずその直後からの条虫体と考えられた。15日にも便中に僅かの分離体節は出たが大部分は前日に排出された様である。頭節を求めて14、15日の全便をしらべ見出されなかつたので、15日夕食を粥食とし、6時に硫酸ソーダ5gを頓用させておいて、16日朝食抜きで9時に4g、10時に4gとカマラを投与し、以後すべての便中から虫体を求めたがそれらしいものはなかつた。

条虫の形態

ホルマリン固定された虫体の全長は50cmで最大巾2.0mm、片節の総数は約600~900個である。前述の如く何れも頭部を欠いている。幼弱片節は0.306~0.408×0.408~0.476mmで横径が長い。生殖器は完全には発達していない。睾丸は68~70個であつて分布区域は体側の排泄管の内側に多い。この時期に体中央部に子宮が判然としている。その大きさは0.272×0.068mmであ

る。辜丸は $26 \times 26 \mu$ である。

成熟片節は $0.085 \sim 0.102 \times 0.986 \sim 1.02 \text{ mm}$ で雌性生殖器は十分に發育し、片節後方に1対づつ、卵巣と卵黄腺をみとめ、中央にやや蛇行する子宮が走り、内部には未熟の虫卵が認められる。辜丸は判然と認められる。

老熟片節は初めは大きさが $1.19 \times 1.7 \text{ mm}$ で巾が後方に行くに従つて $2.21 \times 1.87 \text{ mm}$ となり横径より長径がやや長い。体中央に長大な子宮が蛇行し、後方は膨大して副子宮 ($0.42 \sim 0.56 \times 0.42 \sim 0.56 \text{ mm}$) を形成し、それらは完成した虫卵で充満されている。辜丸、卵巣、卵黄腺は退化している。遊離片節は $1.8 \times 1.8 \text{ mm}$ で肉厚である。副子宮 ($0.51 \times 0.51 \text{ mm}$) が肉眼でも明らかに白点として認められる。これを潰すと多数の虫卵が出てくる。虫卵の大きさは $24 \sim 26 \times 17 \sim 19 \mu$ で比較的うすい卵殻を有し不正楕円形で中に六鉤幼虫がある。

考 按

本条虫は *Mesocestoides* 属のものと考えられる。本属には Yamaguti (1959) によると22種余りが報告されている。*M. lineatus* は Wardle & McLeod (1952) によると30 cm から250 cm に至る体長の区々なものであると言う。*M. litteratus* Batsch, 1786 は体長30~130 mm の遙かに小形の条虫である。伊藤ら (1959) は静岡県3カ日町の野犬から後者を見出しているが、今回人体から検出された虫体は体長の点で *M. lineatus* に近い。

さきにも述べた様に頭部を得られなかつたので、片節丈の観察によるが、生殖器の形態は *M. lineatus* に一致する。辜丸の数は Yamaguti (1959) は50~70とし、Wardle & McLeod (1952) は54~58 (但し Witenberg, 1934 によるとして326頁の180図Bに描かれている片節の辜丸数は66及び71)、伊藤らは65~70としていて

我々の68~70と大体一致している。

日本における *M. lineatus* 人体寄生例のいずれもが蛇の生肝を食べていることは興味がある。

結 語

名古屋市在住の49歳の洋服屋の男から6隻の *M. lineatus* (条虫) を駆出した。bithin による駆虫で何れも頭部がなく、翌々日カマラを服用させたが遂に頭部を見出せずに終つたことは残念である。小坂 (1942)、伊藤ら (1962) の人体例同様蛇の生肝、生血が感染源と考えられ、その患者の住所も浜松、豊橋、名古屋と東海地区であることは興味がある。

文 献

- 1) Chandler, A. C. (1942) : First record of a case of human infection with tapeworms of the genus *Mesocestoides*. Amer. J. Trop. Med., 22, 493-496.
- 2) Faust, E. C. and Russell, P. F. (1957) : Craig and Faust's Clinical Parasitology, 631, Lea & Febiger Philadelphia.
- 3) 伊藤二郎・渡辺強三・野口政輝・望月久・河野鎮雄 (1959) : 静岡県下におけるいわゆる野犬の寄生蠕虫 (5). 寄生虫学雑誌, 8(5), 649-654.
- 4) 伊藤二郎・本田銃咲・石黒満 (1962) : *Mesocestoides lineatus* (条虫類) の日本における第2例. 寄生虫学雑誌, 11(2), 71-75.
- 5) 小坂晋 (1942) : *Mesocestoides lineatus* の最初の人体寄生例. 実験消化器病学雑誌, 17, 405-408.
- 6) Wardle, R. A. and McLeod, J. A. (1952) : The zoology of tapeworms, 325-333. The University of Minnesota Press, Minneapolis.
- 7) Yamaguti, S. (1959) : Systema Helminthum II, 363-365. Interscience Publishers, New York, London.

THE THIRD RECORD OF A CASE OF HUMAN INFECTION WITH *MESOCESTOIDES LINEATUS* (CESTODA) IN JAPAN

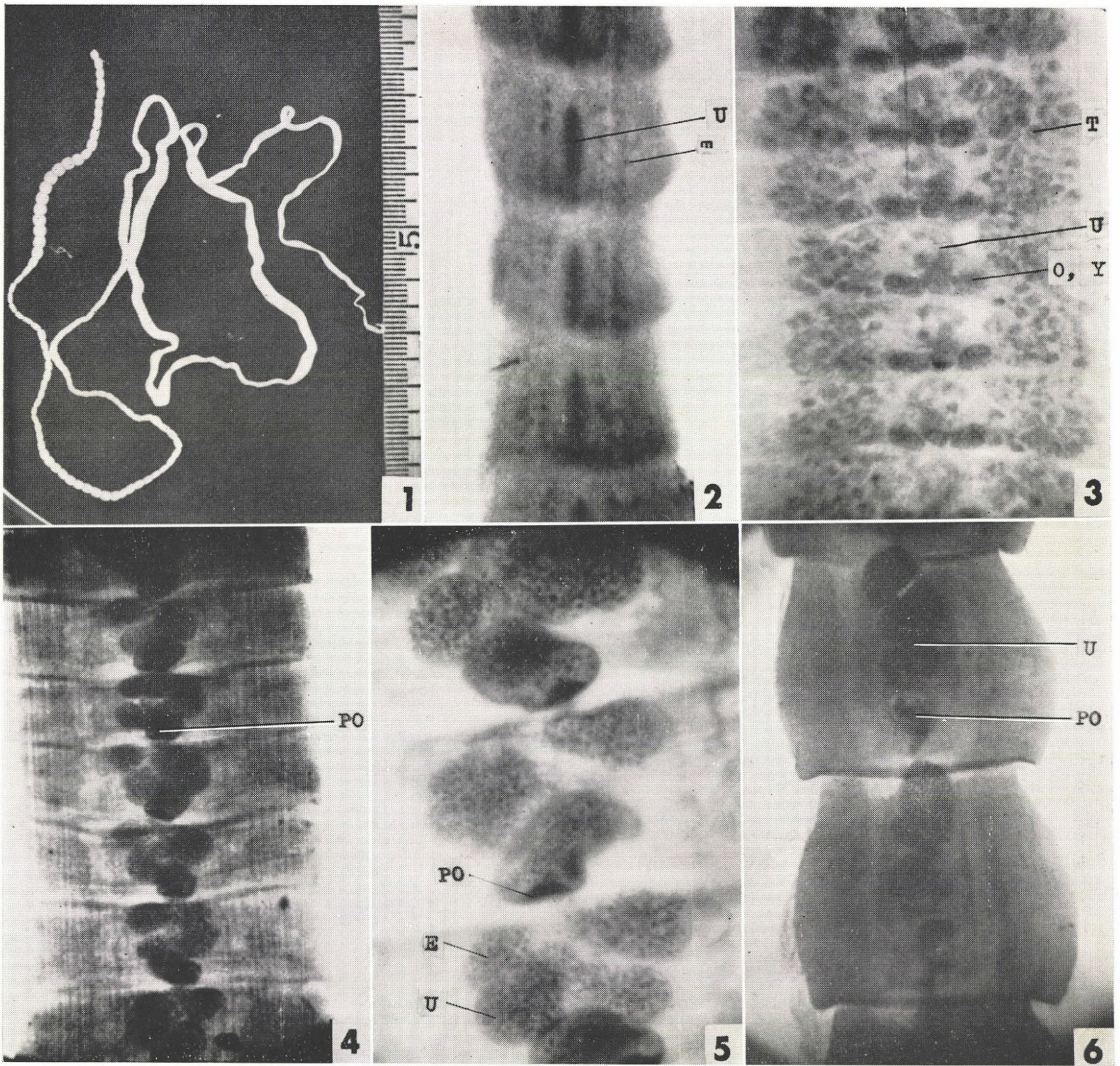
TETUO MORISITA, MIZUHO KOBAYASHI, MOTOSHI GOTO,
TAKASHI EGUCHI, KAZUNORI MORIYAMA
(Department of Parasitology, Gifu Prefectural Medical School)

& MIYOJI OHASHI

(Department of Internal Medicine, Gifu Prefectural Medical School)

This is the third case of human *Mesocestoides lineatus* infection in Japan. Six fully developed worms without head parts were discharged by bithin from 42 years old man who was suffering from diarrhoea. One year ago, this patient drank and ate raw blood and liver of a snake, *Agkistrodon halys*, as a medicine.

Plate 1



EXPLANATION OF PLATES

Plate 1

1. Whole adult worm of *Mesocetides linatus*
2. Immature segments
3. Mature segments
4. Anterior gravid segments
5. Enlarged anterior gravid segments
6. Posterior gravid segments

Plate 2

7. Enlarged posterior gravid segments
 8. Terminal gravid segment
 9. Gravid segment from the stool of patient
 10. Ova from the paruterine organ
- E: egg, O: ovary, PO: paruterine organ,
T: testes, U: uterus, Y: york gland

